

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	関市	学校名	関市立上之保中学校			
校長名	後藤 剛	対象学年	全校	人数	34名	
活動名	茶道お点前学習 茶園活動・茶会		時間数	2年生35時間 全校 8時間	継続年数	3年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） 3 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） 4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） 5 絆を深め、よりよりふるさとをつくる活動 6 その他（ ）		[○] [] [] [○] [○] []			
複数年継続するための工夫改善	本校は「茶園活動・茶道学習」を全校で展開している。地域に学ぶとともに、生徒の力を地域に活かすこの「お茶活動」を通して、地域の伝統や文化を学び、社会性や郷土愛も育んでいる。 学校茶園をもち、地域の方の指導のもとに茶の栽培を行っている。2年生時には、総合的な学習の時間に「煎茶と抹茶のお点前学習」を行い、年に2回の校内茶会では茶会を計画・運営するとともに茶席の亭主役を務めている。さらに、この学びを生かして全校の有志が地域で野点茶会を行っている。 このように、お茶にかかわる活動内容を地域と連携して意図的・計画的に系統化し、中学校在学3年間の間に『お茶で結ぶ伝統と文化』を育て継承している。					
<p>1 ねらい 「お茶活動」を通して自ら進んで課題を見出し解決しようとする「自立」の姿勢を育てるとともに、地域と連携し、お茶にかかわる活動内容一つ一つの意義と価値を実感させながら展開することにより『お茶で結ぶ伝統と文化』をよりよく継承・創造する。</p> <p>2 活動の概要【資料1：カリキュラムデザイン～お茶で結ぶ伝統と文化～参照】 (1)茶園活動【資料2：記録写真参照】 ○ 茶摘、学校茶園の除草・施肥 全校 (2)茶道学習【資料2：記録写真参照】 ○ 煎茶・抹茶のお点前と茶室作法の学習 2年生 (3)茶会【資料2：記録写真参照】 ○ 1学期：新茶を味わう会（上之保中学校茶室） 全校 ○ 2学期：関市百年公園オータムフェスティバル野点茶会（関市百年公園） 有志 ○ 3学期：初釜（上之保中学校茶室） 全校</p> <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子 本校が位置する上之保地域は、長良川の支流である津保川上流の自然豊かな山里である。江戸時代に茶の生産が盛んになり、現在もなお地域の特産として多くの家でお茶づくり「津保茶」が行われている。学校も茶園を有しており、全校生徒をあげてお茶栽培を行っている。お茶栽培にかかわる年間の活動は、地域の方々の温かい協力で支えられ、地域の方に学びながら活動を推進している。茶摘みの時期には、地域の「茶園ボランティア」の方の協力を得ている。お茶の栽培や収穫を通して、働くことの価値や喜びとともに地域の伝統・文化を体験的に学んでいる。 また、年間3回の校内外の茶会では、茶道の学びを発揮して茶会を計画・運営し、保護者や地域の方々をお招きしておもてなしをしている。</p> <p>4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等） 茶園活動を通して、生徒は勤労と地域の自然や産業に目を向け親しんでいる。茶道学習では、茶道の所作を通して日本文化の良さや価値を実感しながら一期一会の精神を育んでいる。 また、毎年、1学期末2学期末の自校評価で「茶園活動及び茶道を学ぶ・茶道に学ぶ・茶道で伝える活動」についてアンケート調査をしている。本年度1学期末の結果は次のようになった。生徒「お茶で結ぶ伝統と文化に誇りをもっていますか。」の結果、Aあてはまるが68%、Bどちらかというあてはまるが29%、合わせて97%であった。保護者「上之保中学校は地域の特色を生かした活動をしていると思いますか」の結果、Aあてはまるが56%、Bどちらかというあてはまるが41%、合わせて97%であった。このことから、生徒・保護者ともに「お茶で結ぶ伝統と文化」に高い誇りと深い自信をもっていることが示されている。家庭・地域・学校が連携して上之保の地に薫り高い文化を守り育てている。</p>						